

# 2 「国立公園満喫プロジェクトの取組み」について

## 1 国立公園満喫プロジェクトとは

平成 28 年(2016 年) 3 月 30 日に観光ビジョン構想会議(議長:内閣総理大臣)がとりまとめた「明日の日本を支える観光ビジョン」の柱の一つとして、国立公園を世界水準の「ナショナルパーク」としてのブランド化を掲げ、平成 28 年(2016 年) 7 月に環境省が選定した 8 箇所の国立公園において、オリンピックが開催される令和 2 年(2020 年)までに訪日外国人を惹きつける取組みを計画的、集中的に実施し、外国人国立公園利用者数を年間 490 万人から 1,000 万人に倍増させることを目指しています。

## 2 阿蘇くじゅう国立公園における主な取組み

### (1)「阿蘇くじゅう国立公園ステップアッププログラム 2020」の概要

本プロジェクトの全国モデル箇所の 1 箇所に選定された「阿蘇くじゅう国立公園」では、行政、民間、有識者からなる阿蘇くじゅう地域協議会において、平成 28 年度(2016 年度)から令和 2 年度(2020 年度)までを計画期間とするロードマップとして、平成 28 年(2016 年) 12 月に、「阿蘇くじゅう国立公園ステップアッププログラム 2020」を策定しました。

阿蘇くじゅうの最大の魅力である草原の維持・再生をはじめとした上質な景観保全を図るとともに、多様な宿泊施設の確保などによるインバウンド(訪日外国人の旅行)や滞在客の増加を図ることとしています。

阿蘇くじゅう国立公園 満喫プロジェクト

復興の大地～草原のかほり、火山の呼吸。人が継ぎ、風と遊ぶ感動の大地～ (数値目標)～外国人利用者数 68万人(2015年)→140万人(2020年)～

**ビューポイント**

**特徴①**

### 広大な草原空間の活用と保全

草原空間を核としたフィールドミュージアム構想を基本とし、草原を体感できる拠点施設整備をはじめ、利用者負担金による草原再生検討

- ① フィールドミュージアムの拠点として草原を体感する施設整備検討 (H29 より検討開始)
- ② 野焼き等の継続支援や利用者負担導入の検討による草原再生 (H29 より検討開始)
- ③ 草原景観を楽しむ新たなアクティビティの開発 (ホーストレッキング、スカイスポーツ等)

**特徴②**

### バイク、サイクリングなどで、火山と草原が作り出した雄大な景観を体感するロードパーク

高い評価を受ける草原のワインディングロードなど、絶景の中を走る道路を活かしてサイクリング・ツーリングコースを設定し、利用環境を整備

- ① 大景観を堪能できる阿蘇とくじゅうをつないだサイクリングイベントなどの実施
- ② 外輪山100km一周バイクレースなどの開催の検討
- ③ モンベルと連携したサイクリングなどのアウトドアプログラム開発 (開始済)
- ④ カルデラを一望でき、ライダー等の拠点となる施設の再整備の検討

**特徴③**

### 地域特有の文化や湯治文化と連携した新たなツーリズムの創出

農耕祭事や神楽など地域特有の文化や、多様な泉質での湯治文化と連携した、新たなツーリズムを創出

- ① 食・温泉・文化が融合したONSEN・ガストロノミーの推進 (H29 より開始)
- ② 世界的に活動する和太鼓アーティストグループ「DRUM TAO」とコラボした劇場・体験施設の整備 (H29 より開始)
- ③ 温泉とマラソンなどを組み合わせたスポーツツーリズムの推進

**特徴④**

### 災害の体験を活かし、安全に楽しめる国立公園へ

災害も阿蘇をジオサイトとして作り上げた自然の営みの一つとして捉え、震災遺構を新たなジオサイトとして保存し、観光資源としても活用。また、教訓を踏まえた、災害に対する安全対策を実施

- ① 活断層や地割れ等の震災遺構を保存し、学習旅行や観光プログラムに盛り込む (H29 より開始)
- ② 噴火発生時の避難・退避場所の整備、迅速かつ適切な情報発信 (H29 より開始)
- ③ 火山博物館とビジターセンターの一体的な整備の検討

(2) ステップアッププログラム 2020 実現に向けた本県の取組み

本県では、阿蘇の特徴である世界最大級のカルデラ地形を有する「活火山」と、人々の営みにより守られてきた雄大な「草原」など、これらの景観を体感できる多様な体験を提供し、インバウンドを中心とした来訪者の満足度を向上させ、来訪客数及びその滞在時間（日数）を増加させること目指し、国、県関係部局、市町村及び民間団体と連携しながら、17の重点取組みを中心にハード・ソフト両面で事業に取り組んでいます。

国立公園満喫プロジェクト推進に係る県の重点取組み	
<p><b>(1) 上質の景観の保全</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 草原景観の維持・再生</li> <li>② 国立公園に馴染まない電線等の撤去、眺望の確保</li> <li>③ 統一看板の設置</li> <li>④ 阿蘇山上登山道の安全柵整備</li> <li>⑤ フィールドミュージアム構想に基づく草原の維持</li> </ul>	<p><b>(3) 阿蘇山上の観光復興</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>⑪ 中岳火口の早期復旧</li> <li>⑫ 給水施設及び自然公園施設の復旧・復興</li> <li>⑬ デジターセンターの設置（火山博物館内）</li> <li>⑭ 草原レストハウス等の活性化</li> </ul>
<p><b>(2) 滞在客増加のための多様なサービスの提供</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>⑥ 草原や景観を活用したトレッキングコースの整備</li> <li>⑦ アクティビティー及び着地型プログラムの開発</li> <li>⑧ アクティビティー施設の整備検討</li> <li>⑨ モンベルと連携した自然プログラムの開発</li> <li>⑩ 地域のブランド力を高める宿泊施設の誘致等</li> </ul>	<p><b>(4) 熊本地震からの復旧・復興</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>⑮ 震災遺構の保存・活用</li> <li>⑯ 菊池渓谷をはじめとした自然公園施設の復旧・復興</li> </ul>
	<p><b>(5) 情報発信・広報PR</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>⑰ 国立公園への誘導策・プロモーション実施</li> </ul>

(3) 本県のこれまでの主な取組状況

令和2年（2020年）の目標実現に向けて、本県では、これまで自然を体感できる木製の展望デッキ、草原景観に配慮した木柵（安全柵）の整備を行うとともに、環境省や地元市町村と連携して、JR阿蘇駅前の無電柱化や中岳火口を満喫するトレッキングコース整備などに取り組んでいます。

また、阿蘇くじゅう国立公園内への来訪者の滞在時間増加に向け、国立公園の特性を生かしたガイド付きプログラムの造成や多様なアクティビティープログラムの提供など受入環境整備にも取り組んでいます。

【自然を体感できる展望デッキ】



【草原景観に配慮した安全柵】



【阿蘇中岳周辺トレッキング】



【JR阿蘇駅前の無電柱化】



【ガイド付きプログラム造成】

